

3 いつも安全でおいしい水を

(1) 安全な水づくり

いつも安全な水をとどけるために、水道局では、どのような取組をしているのでしょうか。

貯水池や川での検査

水道水のもとになるのは貯水池や川の水です。水道局の水質センターでは、貯水池（ダム）や川の水がよごれていないか、定期的に調べています。

まれに、油が流れていたり、魚がたくさんういていたりして、川の水がよごれていることが分かります。水がよごれがひどくなると、貯水池や川から水を取ることができなくなってしまいます。そういうときは、すぐに出動して、どのくらいよごれているのか、よごれのもとがどこから流れてきたのかを調べます。



▲貯水池の水の検査



▲川の水の検査

浄水場での検査

浄水場では、湖や川から入ってきた水道水のもとになる水や、きれいにしている途中の水、そして最後にきれいにできあがった水の検査をしています。

また、浄水場だけでなく、水質センターでも、いろいろな機械やけんびきょうを使って、飲み水としての基準をみているかをたしかめるために、くわしい検査をしています。



▲浄水場での水の検査

おいしくて安全な水をとどけるためには、いろいろな検査が必要なんだね。



じゃ口から出る水の検査

じゃ口は水道を利用する人に一番近いところです。そのため、水質のきめ細かくきびしいチェックが必要です。水道局では、水質の検査を自動で行う機械を使って、都内131か所で毎日24時間検査しています。

また、じゃ口から出る水について、定期的におい・味などのたくさんの項目の検査をしています。



▲自動水質計器